ワクチン情報の説明

RSV（呼吸器合胞体ウイルス）ワクチン：*知っておくべきこと*

Many vaccine information statements are available in Japanese and other languages. See www.immunize.org/vis

多くのワクチン情報の説明が、日本語やその他の言語で利用することができます。www.immunize.org/visを見てください。

1. ワクチン接種を受ける理由は？

RSV ワクチンは、**呼吸器合胞体ウイルス（Respiratory Syncytial Virus, RSV）**によって引き起こされる下気道疾患を予防することができます。RSV は一般的な呼吸器ウイルスで、通常は軽度の風邪のような症状を引き起こします。

RSV はあらゆる年齢層に病気を引き起こす可能性がありますが、特に乳児や高齢者では重篤化するおそれがあります。

- RSV は、米国の乳児における最も一般的な入院の原因です。生後 12 ヵ月以下の乳児（特に生後 6 ヵ月以下の乳児）や早産児、慢性肺疾患、慢性心疾患、または免疫力が低下している小児では、RSV 感染症が重症化するリスクが高くなります。
- RSV 感染は特定の成人においては危険となる場合があります。RSV 感染症が重症化するリスクが最も高い成人には、高齢者、特に心臓病や肺疾患などの慢性疾患、免疫力が低下しているか、もしくはその他特定の慢性疾患を有する成人、または介護施設に居住している成人が含まれます。

RSV は、感染した人の咳やくしゃみの飛沫が、目や鼻、口に直接接触することにより広がります。また、ウイルスが付着しているドアノブなどの表面に触れた人が顔をさわってしまうことにより広がる場合もあります。

RSV 感染症の症状には、鼻水、食欲減退、咳、くしゃみ、発熱、喘鳴などがあります。きわめて幼い乳児では、RSV の症状には、易刺激性（ぐずる）、活動性の低下、無呼吸（呼吸が 10 秒以上止まる）などがあります。

ほとんどの人は 1 ～ 2 週間で回復しますが、重篤となって息切れや酸素濃度の低下が生じることもあります。RSV は細気管支炎（肺の小さな気道の炎症）や肺炎（肺の感染症）を引き起こすことがあります。RSV は、喘息、慢性閉塞性肺疾患（呼吸がしにくくなる肺の慢性疾患）、心不全（心臓から十分な血液と酸素が体全体に送り出されない状態）などの他の病状の悪化につながることもあります。

乳児や高齢者が RSV で重症となった場合は、入院が必要となる場合があります。死亡する場合もあります。

2. RSV ワクチン

乳児を RSV から予防するため、妊婦に接種する母体ワクチンと乳児に接種する予防抗体の 2 つのワクチン接種の選択肢があります。ほとんどの乳児は、これらの選択肢のうち 1 つだけで予防になります。

生後 6 ヵ月以内の乳幼児を RSV 感染症から予防するため**妊娠 32 週から 36 週までの妊婦**に RSV ワクチンを 1 回接種することを CDC は推奨しています。このワクチンは、米国の大部分で 9 月から 1 月までに接種することが推奨されています。しかし、一部の地域（米国領土、ハワイ、アラスカ、フロリダ州の一部）では、これらの地域の RSV 流行期間に基づくため、ワクチン接種の時期が異なる場合があります。

CDC は、**75 歳以上**、および **RSV 感染症が重症化するリスクが高い 60 歳～ 74 歳の成人**について、RSV ワクチンを 1 回接種するよう推奨しています。リスクの高い 60 歳～ 74 歳の成人には、心臓病や肺疾患などの慢性疾患、免疫力が低下しているか、もしくはその他特定の慢性疾患を有する人、または介護施設に居住している人が含まれます。

RSV ワクチンは他のワクチンと同時に接種してもかまいません。

U.S. CENTERS FOR DISEASE CONTROL AND PREVENTION

3. 担当の医療従事者にご相談ください

以下のような方がワクチンを受ける場合には、ワクチン接種を担当する医療従事者にご相談ください。

- これまでに **RSV ワクチンの接種後にアレルギー反応**を起こしたことがあるか、または**重度の生命を脅かすアレルギー**がある

場合によっては、担当の医療従事者が RSV ワクチンの接種を次回の来院まで延期するように判断する場合があります。

風邪などの軽い病気にかかっていても、ワクチン接種を受けることができます。中程度または重度の病気に罹患している場合は、回復してから RSV ワクチンを接種するほうがよいでしょう。

詳しい情報については、担当の医療従事者にお尋ねください。

4. ワクチン反応のリスク

- RSV ワクチンの接種後に、注射した部位の痛み、赤み、腫れ、疲労（倦怠感）、発熱、頭痛、吐き気、下痢、筋肉痛や関節痛が起こることがあります。

一部の高齢者では、RSVワクチンの接種後にギラン・バレー症候群（Guillain-Barré Syndrome, GBS）をはじめとする重篤な神経疾患の発生が報告されています。現時点では、60 歳以上の人において RSV ワクチン接種後に GBS のリスクが高まることは確認できておらず、また否定することができません。

RSV ワクチン接種を受けた妊婦において、早産および子癇前症を含む妊娠中の高血圧が報告されています。これらの事象がワクチンによって引き起こされたのかどうかは不明です。

ワクチン接種を含め、医学的な処置により失神する方もいます。目まいや視力の変化、耳鳴りなどを感じたら、担当医療従事者にお伝えください。

どんな医薬品でもそうであるように、ワクチン接種により重度のアレルギー反応や、その他の重篤な傷害や死亡が起こる可能性はごくわずかにあります。

V-safe は、あなたや扶養家族が RSV ワクチンの接種後のからだの状態や調子について CDC と共有するための安全性モニタリングシステムです。V-Safe（**vsafe.cdc.gov**）では情報を確認し、登録することができます。

5. 重度の問題が起きたら？

アレルギー反応は、ワクチン接種を受けたクリニックからの帰宅時に生じることがあります。重度のアレルギー反応の症状（蕁麻疹、顔やのどの腫れ、息苦しさ、速い鼓動、目まい、倦怠感）がみられた場合は、**9-1-1** に電話し、お近くの病院を受診してください。

気にかかる他の症状がある場合は、担当の医療従事者にお電話ください。

有害反応は、ワクチン有害事象報告システム（Vaccine Adverse Event Reporting System, VAERS）に報告する必要があります。通常、担当の医療従事者がこの報告書を提出しますが、あなたもご自身で提出することができます。VAERS のウェブサイトにアクセスいただくか **www.vaers.hhs.gov**、**1-800-822-7967** までお電話ください。*VAERS は反応の報告のみを目的としているため、VAERS のスタッフは医学的な助言は行いません。*

6. 詳しい情報を知るには？

- 担当の医療従事者にお尋ねください。
- お住まいの地域または州の保健局にお電話ください。
- ワクチンの添付文書および追加情報については、米国食品医薬品局（Food and Drug Administration, FDA）のウェブサイトをご覧ください：**www.fda.gov/vaccines-blood-biologics/vaccines**。
- 疾病管理予防センター（Centers for Disease Control and Prevention, CDC）にお問い合わせください。
  - 電話 **1-800-232-4636**（**1-800-CDC-INFO**）
    または
  - ウェブサイト **www.cdc.gov/vaccines**

Japanese translation provided by Immunize.org